

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 13 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580045

研究課題名(和文)「掲鉢図」、「水陸齋図」を通じた擬人化された絵物語研究

研究課題名(英文) The personification of flora as seen in the Shuiluzhai ritual, Shuiluzhai-tu, and Jiebo-tu

研究代表者

伊藤 信博 (Ito, nobuhiro)

名古屋大学・国際言語文化研究科・助教

研究者番号：90345843

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：この中国の絵巻は、異類・異形を描く作品である。特にギメ美術館の「水陸齋図」(15世紀)は水を象徴する龍、土、牡丹、蕪、空気なども擬人化されて描かれている。さらに、同美術館の「掲鉢図」(16世紀)は、楓、桃の花、笹、竹などが擬人化されて描かれ、老若男女の区別もされている作品である。また、絵巻の特徴は、右から左方向に見るのが通常であるが、他の美術館蔵本には、左から右に向って、異類・異類が行列する描かれ方をしている作品があることが分かった。異本「百鬼夜行絵巻」には、蕪や牡丹の擬人化が描かれ、右向きに行列で描かれる作品もあることから、中国と日本の擬人化に関して、他の作品と共に影響の度合いを考察した。

研究成果の概要(英文)：The illustrations in these works construct a world of the dead complete with Confucian ancestral spirits, and deities from Daoism as well as from Buddhism, and personify all manner of existence, mountains and rivers, flora and fauna. These ritual texts record details about the relationship between the deity Kishimojin and the Buddha, as well as about seji offerings for Kishimojin. In jiebo-tu, which depicts scenes from setsuwa tales, the parivara of water, earth, and ether, as well as various flora and fauna, are presented as personified figures. This closely resembles the concept of somoku kokudo shikkai jobutsu depicted in Muromachi arts, indicating influences, particularly as regards the personification of flora. Moreover, various motifs depicted in the shuiluzhai-tu and jiebo-tu, and which later appear in Japan as visualized and personified flora, bear close resemblances to a variant of the illustrated handscroll Hyakki yagyō emaki.

研究分野：室町文芸

キーワード：鬼子母神 植物の擬人化 百鬼夜行

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、「フランス国立図書館蔵『酒飯論絵巻』の特徴と文化庁本の翻刻」(『言語文化論集』名古屋大学、35巻第一号、2013年)、「擬人化され、可視化される植物・食物室町から江戸時代を中心に」(『アジア遊学』第154号、2012年)、「『酒飯論絵巻』に描かれる食物について 第三段、好飯の住房を中心に」(『言語文化論集』名古屋大学、第32巻第二号、2011年)、「『果蔬涅槃図』と描かれた野菜について」(『言語文化論集』名古屋大学、第30巻第一号、2009年)など一貫して、室町から江戸時代における、植物、食物の図像化や擬人化、それに関わる文学創造の歴史研究を続けている。

その研究過程で、京都国立博物館蔵『宝積経図巻』(狩野探幽模写)が、鬼子母神を描く『掲鉢図』であること、そして、画の中に、海老、鯉、豚、象、木、竹、笹などが擬人化され、描かれていることに注目した。また、仏教・道教の諸神を祀る宗教儀礼(施餓鬼)の図であるギメ美術館蔵『水陸齋図』にも、牡丹、蕪(または大根)、木が擬人化され、描かれている。これらの動植物は、「施餓鬼」の対象として描かれており、行列する姿となっている点は、『百鬼夜行絵巻』と同様であり、『百鬼夜行絵巻』異本数点には、『掲鉢図』や『水陸齋図』のモチーフと同様の木、牡丹が擬人化され、蕪らしき幽鬼(一異本では、瓢箪)も描かれている。南方熊楠顕彰館蔵『山の神絵巻』にも同様のモチーフがあり、行列姿で描かれるハワイ大学蔵本『是害房絵巻』にも、天狗が植物を持つ姿ではあるが、植物が象徴的に描かれる。

そこで、これらの『掲鉢図』、『水陸齋図』などの水陸齋関係図像資料を検討し、「行列する絵巻」群の中に、この宗教儀礼の日本への影響度を計ること、そして、「擬人化された動植物、魚、器具・道具」をキーワードに、室町後期から江戸初期に制作された絵物語を中心に、「水陸齋図」の影響や関連性を追求し、これら絵物語の文学的位相、創造に至る歴史的背景を考察したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、絵巻・物語絵に描かれる動植物・食物の擬人化を対象とし、先行研究が少ない『掲鉢図』や宗教儀礼である水陸齋の中国的思想が日本の絵巻・絵物語へ与えた影響を調査・研究することを目的とする。研究対象はギメ美術館蔵『掲鉢図』、『水陸齋図』や「施餓鬼図」(日本・韓国)で、儀礼・文字資料は宝寧寺資料(中国)、水陸齋関係資料(日本、韓国)である。このような資料調査・分析を通じ、儀礼の背景としての宗教画から、モチーフを個々に使用し、「文芸の担い手としての絵物語」へと辿る変化を、室町後期から江戸初期の擬人化された物語、『百鬼夜行絵巻』異本と絡めて多角的に解読する。そして、宗教画から広がった当該時代における

「擬人化された絵物語」の文学的位相、創造世界を探究することで、この時代の文学創造の一端を究明する。

3. 研究の方法

研究の基盤は、ギメ美術館蔵『掲鉢図』、『水陸齋図』(共に明代)、宝寧寺関係資料、その他の水陸齋資料(日本、韓国)の調査・分析におく。その方法としては、調査により、詳細な資料を作成し、それらの資料群を解析する目録学的研究方法を先ず探る。次に、テキストや儀礼、図像の各水準の位相との関係を中心に検討し、それらの成果を統合する。図像は総合的な宗教テキストとしての分析の他に、器具・道具、植物、食物、動物などカテゴリ一別に分類し、日本の絵巻、絵物語と対照し、近似性を探った後、再度、テキストや儀礼との位相を検討し、成果を文学的、歴史的背景の中で、統合し、創造性を問う。その実現のため、調査/研究/展開/再統合の順に研究を細密化し、進展させる。

4. 研究成果

最終年度では、ギメ美術館、フレア美術館、個人蔵、ボストン美術館などの「掲鉢図」の比較を行い、どのような順に、異類が描かれているかを表にした。その際、「釋氏源流」(明代、清代)に描かれる「鬼母尋子」を参照し、釈尊の描かれ方も、米議会図書館本、天理本、岩瀬文庫、早稲田大学などで確認した。さらに、大阪の慶瑞寺蔵の「降魔図(掲鉢図)」が釈尊を最初に描く作品であることが分かった。

元来、「掲鉢図」は右から左に異類が移動するように描かれ、後半に釈尊に隠された鬼母神の子ども、周りを取り囲む一族郎党、そして、最後に釈尊が右向きで描かれている。しかし、清代に描かれたボストン美術館本は最初に釈尊が左向きで描かれ、異類は左から右に移動している。「釋氏源流」の「鬼母尋子」は、現在の調査段階では、釈尊は左端に右向きで描かれているのが通常である。そこで、清代から、又は明末から、左向きの釈尊が描かれるようになったと解釈している。そして、慶瑞寺蔵本は明代作とされるが、釈尊が左向きで最初に描かれていることから、早くも明末の作品ではと考えている。なお、この研究では、「掲鉢図」と「水陸齋図」の関係性と日本の植物の擬人化に与えた影響を考察したが、最終年度で、その報告書として、以下の論文を刊行することとなった(下記〔論文〕～及び、)。

この研究は室町後期の文芸創作に多大な家強を与えたと考えられ、今後も研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14件)

伊藤信博、「聖書に記される植物 表象とその思想」、『越境する呪物 神・妖怪・人』(仮)(笠間書店) 2017年出版予定、全10頁

伊藤信博、「植物・食物の擬人化の展開について」、『越境する呪物 神・妖怪・人』(仮)(笠間書店) 2017年出版予定、全20頁

伊藤信博、「水陸斎・水陸斎図、掲鉢図からみた植物の擬人化の様相」、『東の妖怪・西のモンスター 想像力の文化比較』(仮)(勉誠出版) 2017年出版予定、全21頁

伊藤信博、「掲鉢図と水陸斎図について」、『日本文学の展望を拓く』(仮)(笠間書店) 2017年出版予定、全13頁

Baumert-Ito, S' enivrer au Japon, L'ivresse entre le bien et le mal, 全14頁、査読有、2017年

Nobuhiro Ito, Le développement des personnifications à l'époque d'Edo, Genealogies du fantastique au Japon, 依頼論文、2017年、全11頁

伊藤信博、「擬人化の発展について」、『軍記と語り物』、依頼論文、2017年、全10頁

伊藤信博、「江戸期における擬人化の発展」、『HERITEX』(名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター) 依頼論文、vol.2、2017年、全12頁

伊藤信博、「Le développement des personnifications à l'époque d'Edo」、『Genealogies du fantastique au Japon』(ストラスブル大学出版) 2017年出版予定、全11頁

伊藤信博、「チェルヌスキ美術館蔵『奈良絵本・古今著聞集』の挿絵について」、『言語文化論集』(名古屋大学) 査読無、第37巻第二号、2016年、pp.1-18

Baumert Nicolas, Yuki Hata, Nobuhiro Ito, L'uniformisation des productions agricoles à l'époque d'Edo : des savoirs géographiques biaisés à l'origine de crises, "Géographie Historique" (地理史第9号) 査読有、2016年、全12頁

伊藤信博、「擬人化の転換期において」、『妖怪・憑依・擬人化の日本文化 異類文化学入門』(笠間書店)、査読無、2016年、pp.229-238

伊藤信博、「西欧の擬人化と日本漫画の受容について」、『妖怪・憑依・擬人化の日本文化 異類文化学入門』(笠間書店)、査読無、2016年 pp.281-295

末松美咲、伊藤信博、「『六条葵上物語』翻刻・注釈研究からみる擬人化された物語」、『言語文化論集』(名古屋大学)、査読無、2015年、37巻一号、pp.1-17

〔学会発表〕(計 8件)

伊藤信博、「図像表現と絵ものがたり」、招待講演、2017年3月、ストラスブル大学

伊藤信博 「草木国土悉皆成仏と水陸斎図 影響と植物の擬人化」、『ブラジル国際日本研究学会』2016年9月、アマゾナス連邦大学

伊藤信博、「『六条葵上物語』からみる擬人化」、軍記と物語研究会主催「軍記とパロディ」、2016年8月、中京大学

伊藤信博、「日本酒について考える」、名古屋大学国際シンポジウム「酔いと病の文化」、2016年6月、名古屋大学

伊藤信博、目黒将史、他、「『六条葵上物語』と『月林草』」、絵ものがたり研究会主催「擬人化を考える」、2016年3月、名古屋大学

伊藤信博、「異本『百鬼夜行絵巻』・『是害坊絵巻』などからみるファンタスティックな世界」、日文研及びストラスブル大学共催国際シンポジウム「Genealogy Of Fantasy In Japanese Culture」、2015年12月、ストラスブル大学

伊藤信博、「異本『百鬼夜行絵巻』からみる江戸時代の擬人化とその世界」、韓国日本言語文化学会秋季大会、2015年11月、高麗大学

伊藤信博「異本『百鬼夜行絵巻』・『是害坊絵巻』などからみる江戸期の世界観」、国際研究集会「東の妖怪・西のモンスター」、2015年10月、学習院女子大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<https://sites.google.com/site/emonogatarionagoya/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤信博 (Ito Nobuhiro)

名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・助教

研究者番号：90345843

(2) 研究分担者

無し ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()

無し